

第11回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長	岩田 規久男	(日本銀行副総裁)
審査員	横尾 敬介	(経済同友会副代表幹事、専務理事)
	藤沢 久美	(シンクタンク・ソフィアバンク代表)
	石田 浩二	(日本銀行政策委員会審議委員)
	佐藤 健裕	(日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、プレゼンテーションお疲れ様でした。

皆さんの提言は、多様な問題点や課題を把握し、それを解決する具体的で実現可能性が高いと思わせるものでした。また、私たち日本銀行も真摯に耳を傾け、行動することを求められる提言がみられました。

本日のプレゼンテーションも、さまざま工夫がこらされていました。審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えを堂々と提示し、さらに審査員とその場で議論を深めていました。そうした皆さんの姿は大変頼もしく、また嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べることにいたします。

【最優秀賞】 弘前大学

「地方中小企業向け「健康プログラム」の可能性～医学（社会疫学）と行動経済学の知見をふまえて～」

弘前大学チームの提言は、既存の「健康融資制度」の改善スキームを、行動経済学等

の観点を取り入れたプログラムを組み合わせで考案し、現実味のある提案を行っている点が評価できます。また、明確な問題意識の下で、綿密なヒアリングを行いながら、当初のアイデアを柔軟に修正して提案に結び付けるという、調査・検討のプロセスが非常にしっかりしているという印象を持ちました。プレゼンからも熱意が感じられました。

一方、本プログラムの運営主体、中小企業や金融機関が本プログラムに参加するメリットなどについて、もう一步踏み込んで分析すると、より説得力のある提言となると思われます。

今後、企業・金融機関・地方公共団体等との間での協議を継続するとのことですので、提言が実現することを期待しています。

【優秀賞】 慶應義塾大学

「公的年金制度 三“世”一体の改革～マイナンバー/人口動向シミュレーションを用いた公的年金の役割の再確認と持続性への改革提言～」

慶應義塾大学チームの提言は、若い方々にとって将来の重大な問題である年金制度を取り上げ、制度設計に真っ向から挑んだ意欲的な提案でした。現在の年金制度の抱える根本的な問題に立ち返って考察を重ねたうえで、緻密なシミュレーションに基づいて制度設計を行うことで、示唆に富む議論を展開している点に感銘を受けました。プレゼンテーションも分かり易く工夫されていました。

一方、制度変更の社会への影響に対する検討を深めるほか、シミュレーションの前提条件およびその結果の分析などを、もう少し丁寧に整理すると、より一層説得力が増したのではないかと思います。

【優秀賞】・【特別賞】 成城大学

「日銀ナビゲーター」

成城大学チームの提言は、大学生の金融リテラシー不足という問題意識からスタートし、独自のアンケート調査や日本銀行の公表資料の分析等を踏まえ、ナビゲーター制度という具体的かつ興味深い提案に繋げました。幅広い国民の皆さんとのコミュニケーションを充実させることを課題と考えている日本銀行にとっても、大変示唆に富む内容

だと思います。よく準備された楽しいプレゼンテーションも印象的でした。

「日銀ナビゲーター」を効果的に展開することを考えた場合、「日銀について知る
こと」とQOL（Quality of Life）との関係、日本銀行が果たすべき役割、特に金融
に興味を持たない一般学生に対するアプローチ方法などについて、さらに検討を深めて
いくことが期待されます。

【敢闘賞】 東京国際大学

「留学生に対するファイナンシャル・インクルージョン促進を目指して—留学生向け 「エージェントバンク」設立提案—」

東京国際大学チームの提言は、「留学生倍増」が政策目標となる状況下、金融取引面
で様々な困難に直面している留学生が存在するという現実の身近な問題を取り上げ、ア
ンケートによって具体的な問題点を把握したうえで、「エージェントバンク」の設立と
いう、建設的な解決策を提示しました。

ただし、融資業務を行う場合には、信用コストの問題、貸倒れやトラブルに対応する
体制などについて、あらためて検討する必要があると思われる。

【敢闘賞】 学習院大学

「クラウドファンディングを利用した江戸城再建～日本の森とシンボルの再生～」

学習院大学チームの提言は、夢のある魅力的な提案でした。また、江戸城再建から、
東京オリンピック後の観光収入確保だけでなく、国産木材の需要拡大、日本文化の発信
という複数の効果を見込んでいる点も、提案の魅力と深みを増していると思います。

一方、再建までの工期とそれに見合ったコストの試算、建築後の維持管理コストの回
収可能性、国産材の需要拡大の見通しなど、計数面について、もう少し踏み込んで検討
を加えると、より提案に現実味が出ると思われます。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。日本銀行では、来年度も日銀グランプリを

開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の方々が、身近な生活や大学での勉学をきっかけに健全な問題意識を養い、自ら主体的に考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることを通じて、金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上